

### 狩野山楽画 獅子図

本堂の仏壇の両側には、狩野山楽（1559～1635年）が描いた作品が飾られている。3点のオリジナルは縦45cm、横198cmという大きさである。そのそれぞれに一对の獅子が描かれている。日本では、獅子は神道の神社や仏教寺院に彫像として置かれていることが多い。狩野の作品では、金箔地の背景に、鮮やかな色彩とダイナミックな姿勢で獅子が描かれており、その尻尾とたてがみは波打っている。

師匠である狩野永徳（1543～1590年）から学んだ山楽は、やがて頭角を現し、狩野正信（1434～1530年）が創始した狩野派の総領となった。山楽は豊臣家と徳川家どちらのためにも作品を製作した。山楽の作品の特徴は大胆な色彩とダイナミックな動き、そして自然主義である。山楽の作品は、激動と戦乱の時代から徳川幕府による平和の時代へと移り変わる転換期において、日本の美術を再定義するうえで大きな役割を果たした。